

# 簿記の重要性

## 1. 簿記の重要性

企業を経営するためには、経営計画をたてその計画にそった経営活動をしなければなりません。そのためには、日常の経営活動を帳簿に記録し経営の実態を把握しなければなりません。そのための情報を提供してくれるのが簿記です。

## 2. 簿記のしくみ

### (1) 資産・負債・資本

企業の財政状態は、資産・負債・資本の状況から判断します。

資産とは、企業の所有する現金、商品、建物、備品や売掛金・貸付金などの債権をいいます。

負債とは、買掛金や借入金などの債務をいいます。

資本とは、資産 - 負債によって求められる

純資産をいいます。

### (2) 収益・費用

企業の経営状況は、収益と費用の差額である当期利益により判断します。

収益とは、純資産を増加させる原因をいいます。

費用とは、純資産を減少させる原因をいいます。

たとえば、「売上があがってもうかった」と

とは、現金が増えることであり、その原因が売上の増加であれば、それだけ収益である売上高が多いこととなります。また、経費の支出が多いため赤字になったとは、現金の残高が少ない原因が費用の増加が原因となるためです。

## 取引の8要素

簿記では、取引を5つの取引要素に分解します。この取引の8要素との結合関係により認識します。

この8要素は、左側と右側の要素に分けられて、左側を借方、右側を貸方とよんでいます。

借方		貸方
資産の増加	→	資産の減少
負債の減少	→	負債の増加
純資産の減少	→	純資産の増加
費用の発生	→	収益の発生

## 仕訳

取引を分解し、仕訳へ移行するまでを考えてみましょう。

1. 現金 100,000 円を元入れして営業を開始した。

取引の8要素

資産の増加 - 資本の増加

勘定科目を入れる

資産（現金）の増加 - 純資産（資本）の増加

勘定科目のみと書き、金額を入れる

借方		貸方	
備品	100,000	現金	100,000

2. 備品 30,000 円を購入し、代金は現金で支払った。

資産の増加 - 資産の減少

資産（備品）の増加 - 資産（現金）の減少

借 方		貸 方	
備 品	30,000	現 金	30,000

3. 現金 10,000 円を銀行より借入れた。

資産の増加 - 負債の増加

資産（現金）の増加 - 負債（借入金）の増加

借 方		貸 方	
現 金	10,000	借 入 金	10,000

4. 手数料 50,000 円を現金で受取った。

資産の増加 - 収益の発生

資産（現金）の増加 - 収益（受取手数料）の発生

借 方		貸 方	
現 金	50,000	受取手数料	50,000

5 .借入金 10,000 円とその利息 500 円を現金で返済した。

負債の減少                      資産の減少  
 費用の発生

負債（借入金）の減少              資産（現金）の減少  
 費用（支払利息）の発生

借 方		貸 方	
借 入 金	10,000	現 金	10,500
支 払 利 息	500		

6 . 給料 20,000 円を現金で支払った。  
 費用の発生 - 資産の減少

費用（給料）の発生 - 資産（現金）の減少

借 方		貸 方	
給 料	20,000	現 金	20,000

## 貸借対照表と損益計算書

貸借対照表と損益計算書を図解で示すと次のようになります。

貸借対照表

資産	負債
	資本
	当期純利益

損益計算書

費用	収益
当期純利益	

先ほどの取引をこの図解で説明すると次のようになります。

### 1. 事業の開始

貸借対照表

現金	100,000	資本金	100,000
----	---------	-----	---------

### 2. 備品の購入

貸借対象表

現金	70,000	資本金	100,000
備品	30,000		

### 3. 借入れ

貸借対照表

現金	80,000	借入金	10,000
備品	30,000	資本金	100,000

#### 4. 手数料の受取り

##### 貸借対照表

現金	130,000	借入金	10,000
備品	30,000	資本金	100,000
		当期純利益	50,000

##### 損益計算書

当期純利益	50,000	受取手数料	50,000
-------	--------	-------	--------

#### 5. 借入金の返済

##### 貸借対照表

現金	119,500	資本金	100,000
備品	30,000	当期純利益	49,500

##### 損益計算書

支払利息	500	受取手数料	50,000
------	-----	-------	--------

当期純利益	49,500		
-------	--------	--	--

#### 6. 給料の支払い

##### 貸借対照表

現金	99,500	資本金	100,000
備品	30,000	当期純利益	29,500

##### 損益計算書

給料	20,000	受取手数料	50,000
支払利息	500		
当期純利益	29,500		

# 個人事業の開業

1. 現金 1,000,000 円で日用品販売店を開業した。

借 方		貸 方	
現 金	1,000,000	元 入 金	1,000,000

ONE POINT

個人の場合は「元入金」といいます。なお貸方は「資本金」でも構いません。

2. 現金 100,000 円を普通預金へ預け入れた。

借 方		貸 方	
普通預金	100,000	現 金	100,000

ONE POINT

個人事業を開業したときは、営業用の預金口座を開設した方がよいです。

# 法人事業の開業

1. 会社の設立登記が完了した。なお、個人の預金口座へ振り込んだ出資金 1,000,000 円を引き出し、法人の預金口座を開設し預け入れた。

借 方		貸 方	
普通預金	1,000,000	資本金	1,000,000

ONE POINT

設立にあたり出資金は個人の普通預金へ預け入れたため、法人の普通預金へ振替する。

2. 会社設立時に要した登録免許税 15 万円、収入印紙 4 万円、定款認証料 5 万円を普通預金から引出し、立替払いしていた発起人へ支払った。

借 方		貸 方	
創立費	240,000	普通預金	240,000

ONE POINT

会社設立前に立替払いした設立の費用は設立後に発起人へ支払うことになる。創立費は繰延資産になり、毎年償却して費用化する。